

被災地でおこわれる、作業療法活動の一環で生まれた手作りの品々。イベントを通して販売され、現地の状況を入びとに伝える。作品の販売が人びとの交流となるだけでなく、お互いの「何かをしたい」という気持ちを高めることができるという。「商い」も立派な作業療法なのではないか。

協力隊経験者、被災地へ

JOCVリハビリテーションネットワーク（以下、当会）は、作業療法士や理学療法士など、障害者支援関連職種で青年海外協力隊（JOCV）へ参加した者によって構成された会である。設立は二〇〇八年、現在の会員数は約一三〇名である。わたしは、二〇〇五年から二年間、ドミニカ共和国に滞在し、作業療法分野の仕事を担当した。帰国後、国際協力に関係する活動を国内でも継続したいと思い、当会に入会した。

二〇一二年三月一日東日本大震災が起きた直後より当会では実施可能な活動を検討し、同年四月から現在まで福島県二本松市の一次避難所および、仮設住宅において支援活動をおこなっている。二本松市には福島県浪江町から避難してきた被災者が現在も仮設住宅で生活をしている。

活動頻度は仮設住宅住民（以下、住民）や関連団体と協議のうえ、毎月二回とした。二〇一二年四月指導に加えて作業活動を順次導入していった。これらの作業活動は回数を重ねるにつれ参加者の様子も受け身から主体的、積極的な態度へと変わっていった。

作業療法士による指導のもと、参加者のアイデアや積極性が出て地域の特色を取り入れた活動になった。このようなかわりによって住民のコミュニケーション再構築が促進されると期待したい。現在の課題は男性住民の参加をどのようにうながすかという点と、活動が継続していくために他団体との連携や資金問題、そしてボランティアが被災地を忘れずに継続した参加をしてもらえるような呼びかけである。

「商い」という動機づけ

参加者のなかには手芸を得意とする人が何人もいて、作業療法士が提案する作業をより良い作品になるように工夫していた。そこで作品を作りためてイベントで販売することを提案した。これまで出来上がった作品は各自持ち帰り、家族から賞賛をえられたとの感想を聞いていたが、「商い」にするとなると参加者はみな出来上がりを気にするようになった。より熱心に作品作りに取り組みようになった。またオリジナルの印を作り、作品に判を押すことで自分たちの商品であるという自負も生まれ、作品作りへの意欲が高まった。

作品の販売は、二〇一一年と二二年に東京のJICA地球ひろばで開催された協力隊まつりや日比谷公園のグローバルフェスタでおこなった。「商い」の知識も経験も無いわたしたちは値段設定の仕方や販売の方法すらわからなかったが、見に来てくれた方

月々七月は一次避難所を三ヶ所訪問し、九月からは仮設住宅の集会所二か所へ訪問している。活動内容は、一次避難所では炊き出し、個別対応のリハビリ相談、腰痛予防サポーターなどの提供であった。仮設住宅ではリハビリ相談、集団体操のほかに、二〇一一年二月からは作業療法士による、切り絵、マクラメやヨーヨーキルトなどの手芸、編み物、団扇作り、調理（桜餅、柏餅、肉まんなど）の作業活動を実施した。

コミュニティの再構築に向けて

被災者の生活の場が一次避難所から仮設住宅に移動した後は、行政やさまざまな団体の支援が行き届いたことで、住民はある程度落ち着いた生活ができるようになった。しかし、プライバシーが保たれた生活の反面として、住民の孤立の可能性が高まることが考えられた。当会では住民の定期的な集いの場として機能するよう、マッサージや生

に、作品の制作背景を説明したり、売り上げは当会の活動を通じて浪江町の住民に還元されることを伝えたりすると、みな大変興味をもち、賛同して作品を購入してくださった。「商い」とおして、多くの人が東北を支援しようという気持ちを持ち、支援するきっかけが欲しいと思っていることがわかった。浪江町の住民と話しをしているときに、日本人は福島のことをもう忘れてしまっているという声を聞くことがあったのだが、わたしたちの経験から、福島を応援する気持ちは少しも弱まっていないと伝えることができた。それを感じていただくために、いずれば作品を製作している参加者にも販売活動に参加してほしいと思っている。

作業療法士は一般にはあまりなじみのない職業だが、リハビリテーション分野の職種のひとつである。体や心に障害のある方や発達期に障害をもった方、成年期や老年期に障害をもった方などに対し、主体的な生活が獲得できるように、諸機能の回復と維持、さらに開発をうながす作業活動を用いて治療や指導援助をおこなっている。日常生活の諸動作や仕事など、人間にかかわるすべての諸活動を「作業活動」とよび、これらを治療や援助、指導の手段として用いている。

作業活動には常に感情が伴っている。作業活動は内的動機づけ、つまり何かをやりたいという気持ちが必要なおこなえない。作業療法士はこの気持ちを高めることが大切だと考えている。「商い」という作業は参加者に内的動機づけをうながす効果があると思われた。そしてそれが、売り手と買い手の心の交流につながっていくのである。



膝掛け（販売ブースに飾った写真）



作業風景



協力隊まつりの販売風景



ヨーヨーキルトのヘアゴム



アクリルたわし



仮設住宅集会所の作業風景



値札作り